

環境に配慮した企業活動の推進

● カードレス取引機能の拡充

商品・サービスを通じた環境負荷の低減という観点からは、カードローンおよびクレジットカードのカードレスでの取引機能をご用意しています。

カードローンでは、セブン銀行のATMに表示されるQRコードをスマホアプリで読み込むことにより、カードレスでご利用・ご返済ができます。クレジットカードは、アプリ上でバーチャルカードを発行することにより、ECサイトなどでショッピングをお楽しみいただけます。また、Apple Pay®、Google Pay™に対応しており、リアルチャネルでもカードレスでご利用いただけます。そのほかにも、お客さま名義の金融機関口座への送金や、インターネット返済、口座振替（自動引き落とし）など、カードレスでご利用・ご返済いただける手段をご用意しています。カードローン、クレジットカードともにカード発行せずにご利用いただくことで、プラスチックの使用量を削減することができます。



今後も、お客さまの利便性の向上を図るとともに、限りある資源の使用量の抑制に取り組めます。

● ペーパーレス化の推進

お客さまへの交付書面の一部をペーパーレス化（電子化）することで、お客さまの利便性の向上を図るとともに、資源の使用量を抑制しています。交付書面を電磁的な方法で受け取ることを希望されているお客さまは、ご契約関連書類やお取引に伴う各種明細書を会員サイトからダウンロードにより受け取ることができます。

社内においても、各種申請手続き、給与明細書、社内広報誌、取引先と締結する契約書などの電子化に取り組んでおり、資源の使用量を抑制しています。また、効率的な会議運営と環境保護を目的に、各種会議体のペーパーレスを推進しています。

● 森林保全活動「アコムの森」

温室効果ガスの削減、生物多様性保全などを目的として、2022年6月より森林保全活動「アコムの森」を実施しています。「企業の森づくりサポート制度」を利用して、当社のコンタクトセンターのある神奈川県および大阪府とそれぞれ協定を締結しました。

本活動は、社員ボランティアが森林の整備をおこなうことで、健全な森林の整備・保全に貢献します。神奈川県では主に枝打ち*1や間伐*2、大阪府では下草刈り*3や植樹をおこなっています。2023年度においては、神奈川で4回、大阪で7回実施し、合計163名の社員とその家族が参加しました。

本活動を通じて、神奈川県・大阪府の環境整備・保全をおこなうとともに、社員の環境意識の醸成に取り組んでいます。

	2022年度	2023年度
神奈川	2回	4回
大阪	2回	7回

- *1 余分な枝を切り落とす作業
- *2 過密となった木々の一部を伐採し、適度な間隔をつくる作業
- *3 植えた苗木が成長するまでの間、周りの雑草や雑木を刈り払う作業



アコムの森（神奈川）



アコムの森（大阪）



森林保全活動（下草刈り）

● 自社GHG排出量ネットゼロへの取り組み

当社の事業は燃料を使用することがなく、Scope1の排出がないため、Scope2の排出量の削減に注力しています。2022年6月末には、電力会社と当社が直接契約している店舗・拠点（約630店、3拠点）の使用電力を全て再生可能エネルギーに切り替えました。現在は、管理会社が電力契約をおこなっている店舗・拠点について、再生可能エネルギーに順次切り替えています。

また、2023年よりScope3の排出量の算定についても取り組み始めました。

地球温暖化が叫ばれている昨今、CO₂をはじめとした温室効果ガスの削減は、国や地域だけでなく企業にも求められています。その中で、企業や組織が活動する過程で排出される温室効果ガスの種類を分類したものがScope1、2、3というものです。Scopeごとに算定をすることで企業や組織は自らの活動による温室効果ガスの排出を把握し、それに基づいて効果的な削減方法を考えることができます。



出典：https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteiky/scope123.html を基に作成



社員インタビュー

Scope3の算定に尽力

経営企画部 中村 芳寛



Q scope3の算定に至った背景を教えてください。

きっかけは、MUFGがグループベースでScope3の算出・開示をおこなうこととなり、要請が来たことからでした。MUFGでは、米国基準に基づき2025年度から正式開示を予定しており、今回はその試算算定でした。業態各社がどこも経験がなく、初めてのことでしたので、『そもそも本当にグループベースで算定できるのか?』というところから検討を始めました。

Q 算定を実施するにあたり、どんなところに苦労しましたか？

Scope3は15のカテゴリに分かれており、カテゴリごとに該当する費目・科目を財務諸表から探し、MUFGの計算式に則り金額をCO₂に換算していったのですが、できるかぎり精緻な算出をするため、詳細なデータを探して集計する作業は大変でした。算出項目によっては、費目や科

目だけでは判断できず、経理申請時の明細まで確認をしたりもしました。また、一部のデータは財務諸表だけでは判断できず、例えばお客さまへお送りしている封書などは1通当たりの重さを調べる必要があり、とても苦労しました。

Q 今後挑戦したいことはありますか？

この取り組みをおこなってみて、「Scope3」という考え方がとても面白いと感じました。実は今まで、「サステナビリティ」は縁遠いと思っていたのですが、この算定に取り組んだことで世の中の「サステナビリティ」に興味を沸き、国や政府の取り組み等に関心を持つようになり、私自身の意識が変わったと感じています。

今後も、持続可能な社会の実現に向け、特に環境関連でお役に立てることがあれば携わっていきたく考えています。